

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<28週> 夏季の流行疾患が例年に比べやや多くなっている 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱など / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<手足口病> 第28週の報告患者総数は17,510で、定点当たり報告数は5.9

<腸管出血性大腸菌感染症> 第28週の報告患者総数は98で、うち有症者は71



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Veroto毒素産生性大腸菌 / 無菌性随膜炎 / 手足口病 / 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎



IASRからの速報
P.6-7

A群ロタウイルスによる集団下痢症 - 千葉県 / 飲食店でのA群ロタウイルスによる食中毒事例 - 島根県



海外感染症情報
P.8

エチオピアにおける炭疽の流行 / 他



感染症の話
P.9-12

マラリア
世界で犠牲者の数は年間200万人以上に達し、国内では国際化に伴う海外からの輸入事例が増加している



読者のコーナー
P.13



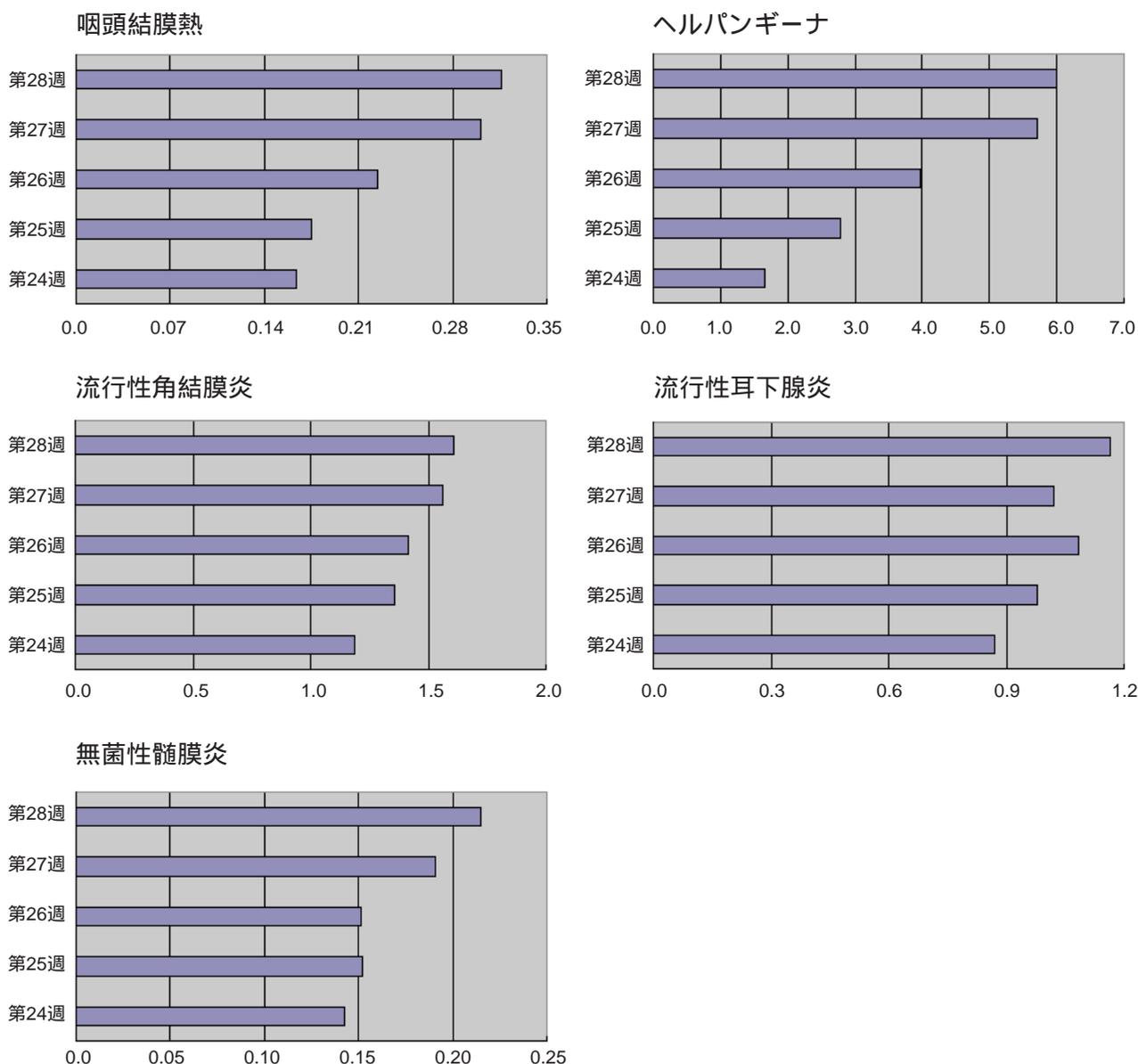
グラフ総覧(28週)
P.14-20



28週のデータ
P.21-28

最近の注目疾患-5週間の動き

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎など夏季の流行疾患の定点当たり報告数が増加傾向にある。流行性耳下腺炎は緩やかに増加傾向を示している。無菌性髄膜炎は基幹定点病院からの報告疾患であり、例年夏季に報告数が増加する。今年も第19週頃より患者報告数が増加傾向にあり、定点からの病原体報告では、分離されたウイルスの中ではこれまではEV71が多く見られていたが、第28週でMumpsウイルスの検出が最も多く6件となっており、流行性耳下腺炎患者の増加を反映しているものと考えられる(地方衛生研究所からの病原体情報については5ページ参照)。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

手足口病流行状況

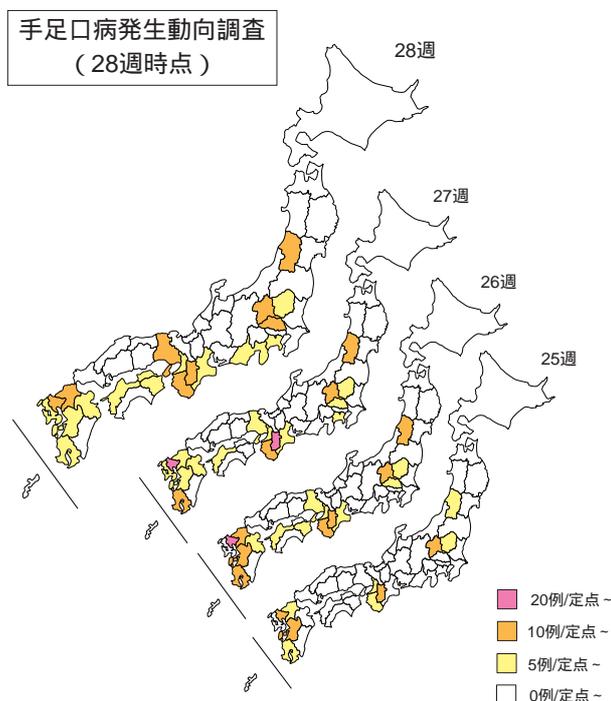
今シーズンは第13週ごろより流行曲線が立ち上がり始め、第20、21週と患者報告数が急増した。流行の大きかった'90年、'95年の流行曲線も第19週頃より急速に立ち上がっており、今年の流行曲線も現在のところこれらの流行年に見られたパターンに近く、今後疾患の動向に注意が必要である。

第28週(7月10日～7月16日)の、全国定点医療機関からの手足口病報告患者総数は17,510で、定点当たり報告数は5.9であった。定点当たり報告数が多いのは、以下の地図グラフで示すとおり、奈良県(19.4)、和歌山県(17.1)、山形県(15.4)、群馬県(13.6)、福岡県(12.2)、佐賀県(11.4)、埼玉県(11.0)、兵庫県(10.8)などである。

患者の年齢階級別では、2歳以下の乳幼児が4割、6歳までで全体の9割を占めている。患者発生ピークは1～4歳にあり、2歳で最も多くなっている。

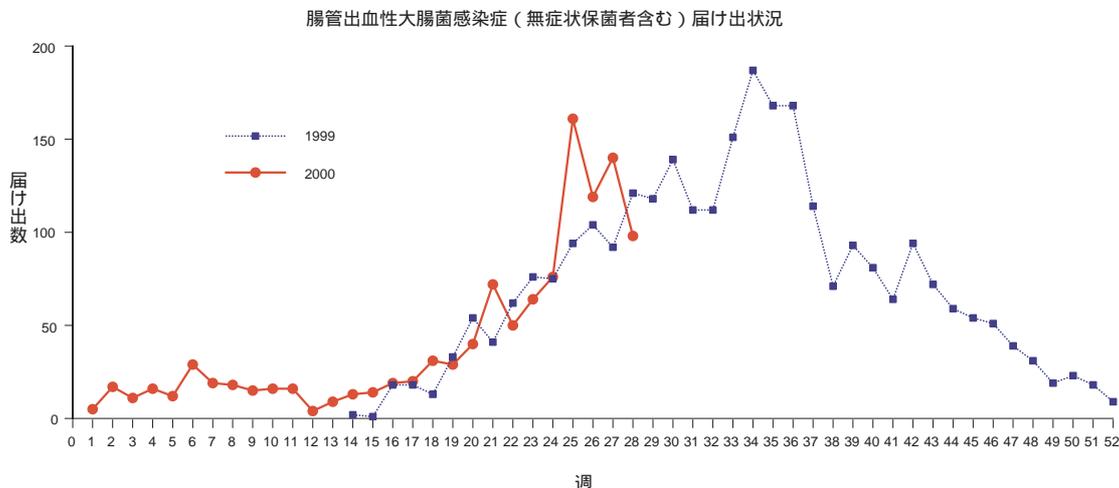
手足口病は小児科定点から報告される定点把握の疾患であるが、実際はこれらの定点医療機関を受診した成人例も報告されており、20歳以上の患者が全体の1%程度見られる。

病原体報告によると第28週は無菌性髄膜炎から分離されたEV71は1件であった(5ページ病原体情報参照)。



腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2000年第28週(7月10日～7月16日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は98で、うち有症者は71であった(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は1,132となり、東京都、大阪府、福岡県、神奈川県、愛知県、兵庫県など大都市を含む都府県で報告数が多い。





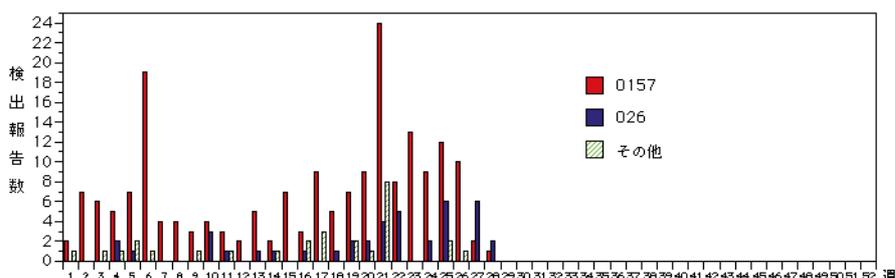
病原体情報

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26

2000年(2000年7月21日現在報告分)

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が192件、O26が40件であり、5月以降ではO157が札幌市、山形県、岩手県、福島県、千葉県、千葉市、横須賀市、岐阜県、石川県、富山県、大阪府、滋賀県、和歌山県、広島市、愛媛県、島根県、福岡市、佐賀県、大分県、宮崎県から、O26が北海道、札幌市、岩手県、茨城県、埼玉県、千葉県、岐阜県、富山県、大阪府、兵庫県、滋賀県、神戸市、島根県、福岡市から分離が報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2000年 (病原微生物検出情報: 2000年7月21日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。



無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス

2000年(2000年7月21日現在報告分)

エコーウイルス3型が神戸市1件(第25週)、4型が福岡市1件(第16週)、6型が福井県(第1週)と京都市(第4週)各1件、神戸市2件(第23,26週)、9型が奈良県7件(第15~17,20,24週)、大阪府1件(第21週)、大阪市1件(第23週)、11型が奈良県(第3週)と高知県(第20週)各1件、25型が山形県2件(第23週)、コクサッキーウイルスB1型が愛媛県2件(第23,24週)、大阪府2件(第25,26週)、B2型が新潟県1件(第25週)、B4型が北九州市2件(第8,24週)と新潟県1件(第23週)、B5型は島根県(第14週)と香川県(第15週)各1件、エンテロウイルス71型が熊本県16件(第14,16~18週)、大阪市(第21週)1件、ムンプスウイルスは東京都5件(第12,17,18,23週)、広島県4件(第8~10,13週)と広島市1件(第14週)、名古屋市1件(第13週)、大阪市3件(第20,23,24週)、香川県1件(第21週)の分離報告があった。

手足口病患者から分離されたウイルス

2000年(2000年7月21日現在報告分)

コクサッキーウイルスA16型が大阪市1件(第10週)、山形県14件(第16週1件、19週~21週8件、24週5件)、奈良県2件(第18,20週)、大阪府1件(第19週)、栃木県7件(第21週)、CA6型は栃木県1件(第21週)、CA9型は新潟県1件(第15週)、CB5型は兵庫県1件(第25週)、エコーウイルス25型は大阪府1件(第27週)、エンテロウイルス71型が神奈川県2件(第4,6週)、大阪府2件(第6,9週)、熊本県16件(第13,14,20~22週)、福岡県1件(第22週)、福岡市3件(第14,17,20週)、北九州市5件(第18,21,23,24週)、兵庫県1件(第19週)、大阪市1件(第20週)、山形県2件(第23週)、浜松市1件(第26週)の分離報告があった。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2000年(2000年7月21日現在報告分)

アデノウイルス1型が川崎市と長野県各1件(第8週)、新潟県3件(第14,21,26週)、大阪府(第20週)と北九州市(第24週)各1件、2型は長野県(第2週)、東京都(第19週)、大阪府(第20週)、兵庫県(第21週)、高知県(第21週)各1件、広島市(第8,19週)2件、北九州市3件(第20,23,26週)、3型は大阪府(第3週)、石川県(第23週)、兵庫県(第26週)各1件、広島市(第16,19,21週)と愛媛県(第23週)各3件、4型は新潟県2件(第5,23週)、5型は広島市1件(第19週)、6型は島根県1件(第16週)、コクサッキーウイルスB5型は島根県2件(第21週)の分離報告があった。

流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2000年(2000年7月21日現在報告分)

アデノウイルス2型が川崎市1件(第16週)、3型が香川県1件(第14週)、4型が岡山県2件(第2,5週)、7型が岡山県1件(第9週)、8型が札幌市1件(第18週)、19型が神奈川県(第2週)と川崎市(第5週)、福岡県(第13週)各1件、37型が岡山県(第5週)と福岡県(第13週)各1件の分離報告があった。

IASR 病原微生物検出情報月報 からの速報

A群ロタウイルスによる集団下痢症 - 千葉県

A群ロタウイルスは、冬季乳幼児下痢症の主要な病因ウイルスであるが、年長児や成人にも感染がみられる。これらの感染のほとんどが散発であるが、稀に小学校や老人ホームでの集団発生が報告されている。2000年3月中旬、千葉県内の小学校でA群ロタウイルスによる集団下痢症の発生が見られたので概要を報告する。

概要: 3月13日(月) 県内のA町B小学校から保健所に、下痢、吐気を主症状とする集団発生の届出がされ、感染症と食中毒の両面から調査が進められた。患者は全学年にみられたが、特に2学年、3学年の発生が多かった。全校では214名中103名に発症者がみられた(発症率48%)。患者の発生は3月10日～13日にみられ、3月11、12日の2日間に7割近くが発症した。主な症状は下痢(42%)、吐気(67%)、発熱(65%)、嘔吐(50%)、腹痛(51%)であった。B小学校の給食は自校式であり、同じ給食施設で調理した給食を隣接の保育園と近隣の中学校に提供していたが、患者の発生は保育園で若干みられたものの中学校では全くみられなかった。

検査結果: 患者10名の便材料について、電顕検索を行ったところ、すべての検体からロタウイルスを検出、A群ロタウイルス検出用ELISAもすべて陽性であった。また、PCRによる血清型別では2型であった。これらの患者のうちペア血清の得られた9名についてA群ロタウイルス補体結合反応を行ったところ、8名に明らかな抗体上昇が認められた。さらに、給食従事者6名の便材料、保存されていた3月8日～10日の小学校給食の検食についてA群ロタウイルスの検索を行ったが、いずれも陰性であった。

以上の結果から、今回の集団発生はA群ロタウイルスによるものであることが明らかになった。患者発生状況から何らかの一斉暴露を受けたと思われるが、感染経路は明らかにできなかった。県内の感染症発生動向調査の定点からの検体では、2000年のA群ロタウイルス陽性は例年より遅く2月中旬に始まり、本集団下痢症発生時に県内での流行が認められていた。

千葉県衛生研究所 篠崎邦子 岡田峰幸 海保郁男
安房保健所 福原 誠

(IASR7月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.7, 2000 P.10)

飲食店でのA群ロタウイルスによる食中毒事例 - 島根県

患者の発生状況: 2000年4月24日、H健康福祉センター管内の住民11名(Aグループ)が食中毒と思われる症状を示した。同グループの共通行動として4月17日にK健康福祉センター管内で食事をとっていた。調査の結果、食堂が調理した仕出し弁当を昼食として食べたAグループ40名中18名(発症率45%)の他、4月17日に同一施設で昼食を食べたBグループ10名中3名(30%)、同施設が調理した仕出し弁当を夕食として食べたCグループ9名中1名(11%)にも有症者がみられ、計59名中22名(37%)が食中毒様の症状を呈していることが判明した。

患者は30～80歳代であり、喫食時を起点とした潜伏時間は11.5～149.5時間(平均59.2時間)、主症状は水様性の下痢(91%)、腹痛(59%)、発熱(46%)、嘔吐(41%)、嘔気(32%)であった。

病因物質の検索: 健康福祉センターで実施された患者便、従事者便、施設ふきとりおよび従事者の手指についての食中毒原因菌の検査結果はすべて陰性であった。そして当所で実施したウイルス検査の結果、ロタクロン(TFB)にて患者便(A、Bグループ)12検体中7検体、従事者便(いずれも無症状)3検体中2検体が陽性となった。また、患者陽性検体2検体に電顕にてロタウイルス様粒子を確認した。小型球形ウイルス(RT-PCR法)、エンテリックアデノウイルス、アストロウイルス(ELISA法)は陰性であった。さらに陽性検体についてロタ-MA(セロテック)を用いたG血清型別を行なった結果、型別可能であった6検体はすべて2型であった。

本件では検食が保存されておらず、また、事件の探知が遅れたため原因食品の検査は実施できなかったが、本事例はA群ロタウイルスによる食中毒と断定された。さらに3グループに特定の共通食品がないことから、広範に汚染された食品あるいは従事者からの二次汚染が患者発生を拡大したものと考えられた。

A群ロタウイルスによる食中毒様事例としては小中学校あるいは老人ホームなどでの発生報告は散見され、本県でも1986年に小中学校での事例(IASR Vol.8、No.3参照)を経験している。しかし、本事例のように飲食店を介しての成人のみの発生例は極めて稀な事例であろう。

なお、同時期の本県における小児の下痢症関連ウイルスの流行状況は、1999年12月～2000年1月にノーウォーク様ウイルスが流行した後、2～3月にA群ロタウイルスが流行、4月以降は両ウイルスが散発的に検出されている。また、本年検出されたロタウイルス11検体中型別が可能であった4検体のG血清型は1型と2型が各2検体であり、両型が流行していたものと推測された。

島根県保健環境科学研究所	飯塚節子	松田裕朋	保科 健	板垣朝夫
木次健康福祉センター	津田一男			
浜田健康福祉センター	増田省一			

(IASR7月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.7, 2000 P.10-11)



海外感染症情報

エチオピアにおける炭疽の流行

WHO/CSR 2000年7月20日

エチオピア Afar 地区で炭疽が疑われる患者の集団発生が WHO に報告された。この地域は家畜で生計を営む遊牧民が居住している。当地域で活動している機関(United Nations Development Programme、国境なき医師団[MSF] など) の報告では、患者の集団発生がみられ、臨床症状で炭疽が疑われる患者数の増加が指摘されている。これまでのところ組織的な疫学調査は実施されていない。

WHO は、MSF/Epicentre とエチオピア保健省と協力して、診断を確定するために地域での調査を行うことを計画しており、同疾患の実際の流行規模と影響を評価し、抑制対策の計画および実施を行うこととした。

新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 - レスター州(イングランド)

Eurosurveillance weekly 2000年7月20日、Lancet 2000年7月22日(vol. 356)

現在まで英国の新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(nvCJD) は 63 例の確認例(confirmed) と 12 例の疑い例(probable) が National CJD Surveillance Unit(NCJDSU) に報告されているが、1996 年以来レスター州で 4 例の確認例と 1 例の疑い例が発生している。

患者は男性 3 人と女性 2 人で年齢が 17 歳から 35 歳(中央値 24 歳) であった。

London School of Hygiene and Tropical Medicine(LHSTM) が行った統計解析は、5 人の患者数はこの地域で偶然に起こる可能性は少ないことを示していた。

また、レスター州 Queniborough(人口 2,500 の村) において、1998 年に 12 週間以内に 3 人が nvCJD により死亡したことで、この村との関連が多方面にわたる報道や国会の質議に加え科学誌にも報告されている。

TSE(伝播性海綿状脳症) でバーモント州の 376 頭の羊を処分 - 合衆国農業省

USDA NEWS RELEASE 2000年7月14日

7月10日、4頭の羊が伝播性海綿状脳症(TSE) であることが確認されたのを受けて、合衆国農業省(USDA) はバーモント州の 3 群の羊 376 頭を処分する予定である。TSE は非常に長い潜伏期間を持ち、致死率が 100% の神経変性疾患である。

TSE としてよく知られている病気として牛の BSE(牛海綿状脳症) と羊のスクレイピーの 2 つがある。BSE と異なり、スクレイピーが人間の健康に害をもたらすことを示す証拠はない。これらの羊がどのタイプの TSE に感染しているのかを決定するためのより詳しい検査が必要であるが、それには数年を要する。

羊はベルギーとオランダから 1996 年に輸入され、USDA 独自のスクレイピー撲滅運動の一環として国内に入ったときから検疫下に置かれていた。1998 年に、USDA はヨーロッパの羊が BSE に汚染された餌に曝露している可能性があることを認識した。USDA の要求に応じて、州がこれらの群を検疫下に置き、屠殺したり繁殖目的で販売することを禁じていた。

これらの羊のミルクは販売されたりチーズを作るのに使われた。そのチーズも販売された。輸入された羊は 1 頭も人間の食用肉となっていないが、検疫をして TSE を見つける要求に反して、これらの羊の子孫の一部が食用とされた。

USDA は連邦のほかの機関やバーモント州と協力して、これらが人間の健康に影響があるかどうか調べている。USDA は輸入規制をしており、世界で最も効果的なサーベイランスプログラムを用いても、合衆国で BSE は見つかっていない。



感染症の話

(注) 今週の感染症の話は編集の都合上、前号と同じものを掲載しました。-IDWR編集委員長-

マラリア

マラリアは、4種のマラリア原虫(*Plasmodium spp.*)の感染により、特有の熱発作とそれに続発する貧血、脾腫のほか、多彩な病態を呈する原虫性疾患であり、感染症法においては4類感染症に分類されている。

病原体と疫学

熱帯熱マラリア原虫(*Plasmodium falciparum*)、三日熱マラリア原虫(*Plasmodium vivax*)、四日熱マラリア原虫(*Plasmodium malariae*)、卵形マラリア原虫(*Plasmodium ovale*)が病因となり、いずれも夜間吸血性の雌ハマダラカに媒介され固有のマラリアを起こすが、この中で熱帯熱マラリア原虫が最も悪性である。

人類はマラリアには有史以前から悩まされ、その疾病史に数々の惨禍を記録してきただけでなく今なお地球上の人口の40%以上が居住する熱帯、亜熱帯各地に猖獗を極めており、年間3億人以上が罹患し、その犠牲者は200万人以上に達すると推定されている。特にサハラ以南の熱帯アフリカで甚大な被害が出ている。また、わが国では国際化が進み、熱帯諸国との交流が盛んになった今日、海外渡航者や来日外国人によって国内に持ち込まれる輸入マラリアが増加しており、最近では、年間120前後の患者発生と臨床経過が悪性の熱帯熱マラリアによる死亡例が散発していることが憂慮されている。加えて、現在の日本で遭遇するマラリアは大部分が熱帯地からの輸入症例であるが、まれに輸血(保存血、血小板、交換輸血) 針刺し事故などによる国内感染も起こっているため注意を要する。

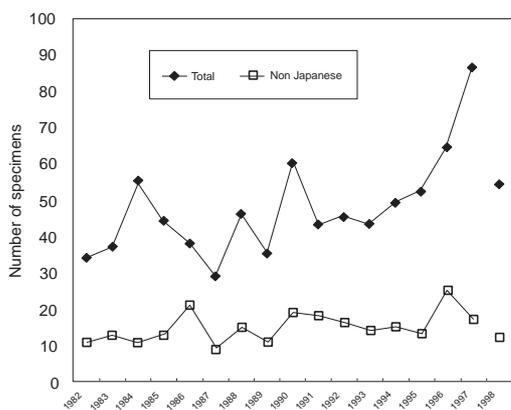


Fig. 1 Number of specimens sent to NIID: categorized according to the nationality of the patients. The data for 1998 is incomplete.

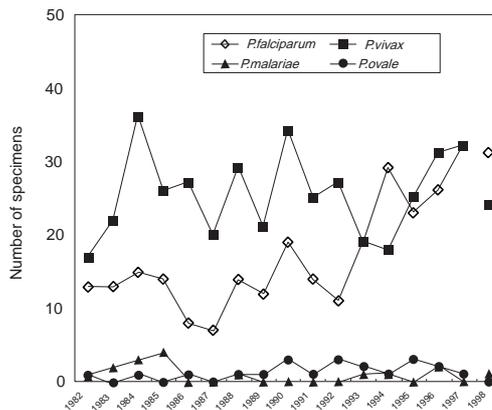


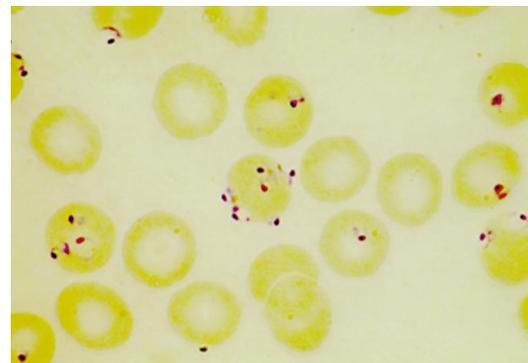
Fig. 2 Incidence of *Plasmodium falciparum*, *P. vivax*, *P. malariae*, and *P. ovale* in the examined specimens. The data for 1998 is incomplete.

病原診断

マラリアは多彩な症状を呈するため、症候学的診断が困難である。そこで、有熱患者を診たら直ちに血液検査を行うのが鉄則である。これには、虫種の鑑別、感染密度の測定が可能なギムザ液染色(pH7.2～7.4)した血液塗抹標本の鏡検により原虫を検索する古典的な方法が今日でも基本である。本法は形態学的な変化の観察から薬剤の効果判定にも用いることが出来る。この場合、臨床的に最も重要な熱帯熱マラリアでは発病直後に輪状体のみが観察され、感染赤血球は非感染赤血球と同大もしくはやや小さく、マウレル斑点を認める。やがてバナナ形の生殖母体が出現するが、成熟栄養体やシizontが検出されるのは稀である。

無性原虫の輪状体、栄養体、シizontのほか、生殖母体の全発育環が検出され、感染赤血球が非感染赤血球より膨大し、シュフナ - 斑点を認めれば、三日熱マラリア原虫か卵形マラリア原虫であり、後期栄養体が寄生する感染赤血球が卵円形で一端が鋸葉状を呈するのは後者である。あるいは、感染赤血球がやや縮小し、いずれの斑点も欠き、栄養体が帯状を呈するのは四日熱原虫である。

また、最近では原虫が発する蛍光を蛍光顕微鏡で観察するアクリジン・オレンジ染色法も用いられている。さらに、蛍光抗体法、DNA診断のPCR法なども開発されているが操作や検査時間に難点があり、日常的な検査法として普及するには至っていない。近年、海外では熱帯熱マラリア及び三日熱マラリアを対象とした特異抗原検出用キット(Dipstick法)が開発されており、10分で反応が完了する迅速診断法としての有用性が評価されている。



ヒト赤血球に感染した熱帯熱マラリア

臨床症状

マラリア、特に熱帯熱マラリアの臨床経過は複雑で、赤血球の原虫感染密度、合併症の有無、宿主の栄養や免疫状態などにより著しく影響される。潜伏期は通常、7～40日で、熱帯熱マラリアが最も短く、四日熱マラリアが最も長い。熱帯熱マラリアを除いてはさらに長期化することも少なくない。

三日熱、四日熱、卵形マラリアでは、食欲不振などの前駆症状の後に悪寒戦慄とともに39 前後の高熱を発生し、数時間後には大量に発汗して解熱するが、発熱時には頭痛、顔面紅潮、頻脈、呼吸切迫、口渴を伴うことが多い。この熱発作は第5病日頃から赤内型無性原虫の分裂周期が同調して悪寒期、灼熱期、発汗期から成る特有の熱発作を呈するようになり、三日熱と卵形マラリアでは48時間、四日熱マラリアでは72時間毎に認められる。この反復により次第に貧血と脾腫をみるようになるが、一般にその経過は良性である。しかし、四日熱マラリアは慢性化するとネフロ - ゼ症候群を併発することがある。

熱帯熱マラリアでは、病因原虫の分裂周期は概ね48時間であるが、熱型不規則な高熱を持続することも多く、冷感はあるが戦慄を欠くことが多い。また、その経過は悪性で、治療開始が遅れると高度の虫血症を呈し、嘔吐、黄疸などのほか、頭痛、傾眠、錯乱、譫妄、昏睡など種々の程度の脳症、急性腎不全、肺水腫/ARDS、重度貧血、出血傾向、低血糖、電解質異常、代謝性アシド - シス、循環不全によるショック、ヘモグロビン尿症などの多彩な病態や重篤な合併症を併発して死の転帰をとる危険が高くなる。

臨床検査所見では、発病当初はさしたる異常を認めないが、しだいに正球性貧血、赤血球の大小不同、多染性と網赤血球の増加を認め、赤血球数、Hb.Htなどが低下し、一般に白血球数の減少傾向に伴う相対的単球増多、血沈亢進、CRP上昇、血小板減少、LDHの増加などがみられるようになる。

また、熱帯熱マラリアでも合併症を伴わない発病初期の軽症例では、GOT, GPT, ビリルビンなどの軽度上昇をみるのみである。しかし重症例では、高度の貧血、LDHの著増、血小板の著減、プロトロンビン時間、部分的トロンビン時間の延長、総コレステロールの著減と中性脂肪の増加、FDPの増加と第Ⅴ凝固因子の減少、乏尿(400ml/日以下)や無尿に伴うクレアチニンやBUNの上昇、血糖値の低下、電解質異常、高グロブリン血症、代謝性アシドシスの所見を呈するようになる。

治療

マラリア治療の基本は化学療法であるが、抗マラリア薬は原虫種とその発育環に特異的な効果をもち、その薬理作用から殺シizont薬、殺ヒプロゾイト薬、殺生殖母体薬に類別され、発熱抑止療法に用いる殺シizont薬が最も重要である。しかし、代表的な殺シizont薬に対する熱帯熱マラリア原虫の耐性株が1960年以降各地に出現しているため、熱帯熱マラリアの治療が以前より困難になっている。

1) 三日熱マラリア、卵形マラリア、四日熱マラリアの治療

熱発作治療の選択薬はクロロキンである。初回600mg、6時間後、24時間後、48時間後に各300mg塩基経口投与。副作用として胃腸障害、頭痛、長期投与により網膜損傷を起こすことがある。また、キニネ、ファンシダールなども有効。

上記熱発作療法後に三日熱と卵形マラリアには肝細胞内発育環のヒプロゾイトをプリマキン(15mg塩基/日、14日間投与)で殺滅して再発を防止する根治療法を行う。腹痛のほか、G-6PD欠損者では溶血発作を起こすことがある。

2) 合併症を併発していない熱帯熱マラリアの治療

ファンシダール(スルファドキシシン500mg、ピリメタミン25mg/錠)3錠の単回投与。副作用として胃腸障害、顆粒球減少、まれにStevens-Johnson症候群を起こす。

硫酸キニネ、1.5g/日、分3で7日間投与。これに、テトラサイクリン1.0g/日、分4、7日間を併用。薬剤耐性の度合いが高い地域で感染した患者に適用。キニネの副作用として胃腸障害、眩暈、頭痛、耳鳴りを起こすことがある。

メフロキン(250mg/錠)4錠(1,000mg)を単回投与または6～8時間間隔で2分服。副作用として胃腸障害、頭痛、眩暈のほか、ときに不眠、悪夢、洞性徐脈を呈する。精神神経疾患、痙攣の既往患者には禁忌。また、ジゴトキシシン、カルシウム拮抗薬、β-ブロッカーなどを服用している患者には禁忌または慎重投与などの適応上の制限がある。

アトバコン・プログアニル合剤(アトバコン250mg、塩酸プログアニル100mg含有/錠)最近開発されたアトバコンは、マラリア原虫のチクロ-ムbを阻害して、クロロキンやメフロキン耐性マラリアにも高い治癒率を示すとされている。1日1回4錠を同じ時間に3日間投与。副作用は軽微で胃腸障害や咳などと報告されている。

3) 重症熱帯熱マラリアの治療

キニネの非経口療法: 二塩酸塩キニネ10mg/kgを5%ブドウ糖液か生理食塩水500ml(患者の水分状態により増減)に溶解し、4時間かけて点滴静注。必要に応じ、8～12時間毎に繰り返し、

患者が軽快したら経口療法に切り替える。なお、重症マラリアでは、血糖値が低下するのに加え、キニ - ネはインシュリン分泌を促進するので投与中は血糖値のモニタリングを行う。また、血圧、不整脈発現の監視も重要である。

アルテミシニンとその誘導体：中国で古くから民間療法に用いられて来た薬用植物から抽出された抗マラリア薬で、有効成分のアルテミシニンとその誘導体(artemether, arte-ether, artesunate, dihydroartemisinin)が中国や欧州の製薬企業で製剤化されている。これらの薬剤はこれまでの抗マラリア薬とは化学構造が著しく異なり、活性酵素による傷害作用がその本態である。これらの薬剤は即効性で副作用も軽微で脳症などを発現した熱帯熱マラリアにもキニ - ネの非経口療法に匹敵する効果を発揮するとされている。しかし、再燃率が高いためメフロキンなどによる追加療法が必要である。なお、アルテミシニン誘導体にはその種類により内服錠、坐薬、注射液などの剤型があるが、その用法・用量が明確に確定されていない製剤もある。

重症マラリアに対する支持療法

重篤な病態や合併症を発現した熱帯熱マラリアには原因療法だけでなく、病態に応じた適切な支持療法の強化が救命に不可欠である。WHOは1990年に重症マラリアの判定基準と治療のガイドラインを策定しており、とくに重要なのは脳症、肺水腫/ARDS、急性腎不全、代謝性アシドーシス、出血傾向、重症貧血などであり、化学療法にあわせてこれらに対する臨床管理が適切にされるか否かが患者の予後に直接影響することを銘記すべきである。なお、現在のわが国に流通している抗マラリア薬はキニ - ネと1987年に承認されたファンシダ - ルの2種のみである。そこで、患者治療にクロロキン、メフロキン、キニ - ネ注射液、ア - テスネ - ト、アトバコン、プリマキンなどが必要な場合は、筆者らが関与しているヒュ - マンサイエンス振興財団「輸入熱帯病・寄生虫症に対するオ - ファンドラッグの臨床評価に関する研究班」に連絡すれば、便宜がはかられる。

感染症新法の中でのマラリアの取扱い

マラリアは第4類の全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に保健所に届ける必要がある。報告のための基準は、以下の通りとなっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

- ・病原体の検出

例：血液塗抹標本による顕微鏡下でのマラリア原虫の証明と、鏡検による虫種の確認など

- ・病原体の遺伝子の検出

例：PCR法など

《備 考》

診断のため、マラリア原虫の形態保持の観点から採血後は速やかに血液塗抹標本を作製することが強く望まれる。

(東京慈恵会医科大学熱帯医学講座 大友 弘士)



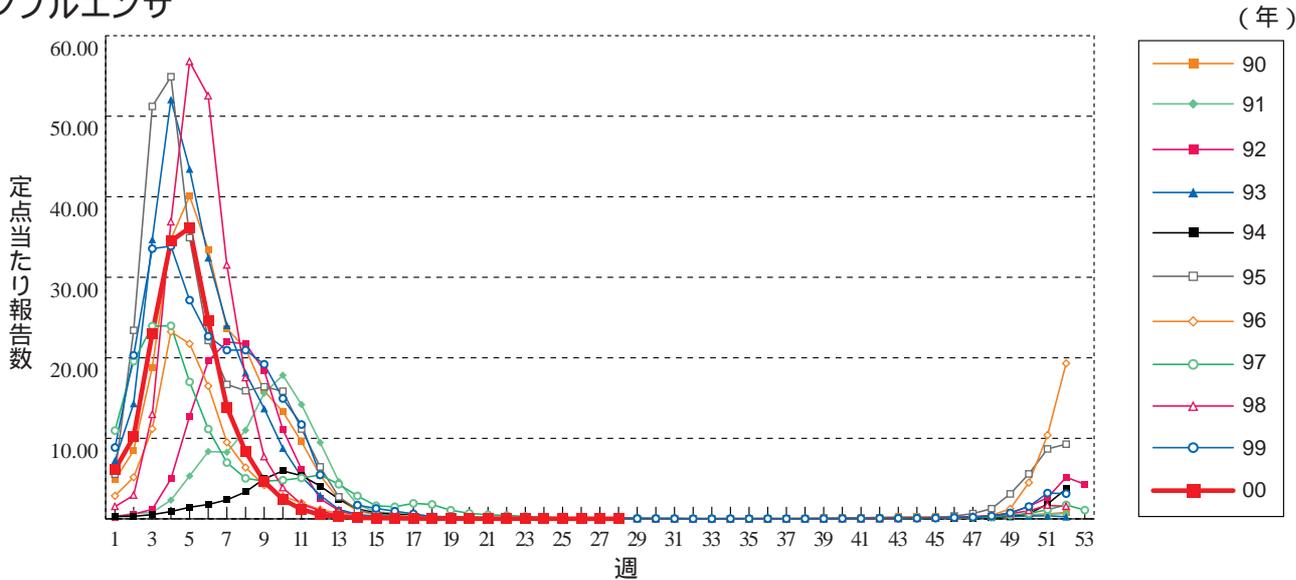
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

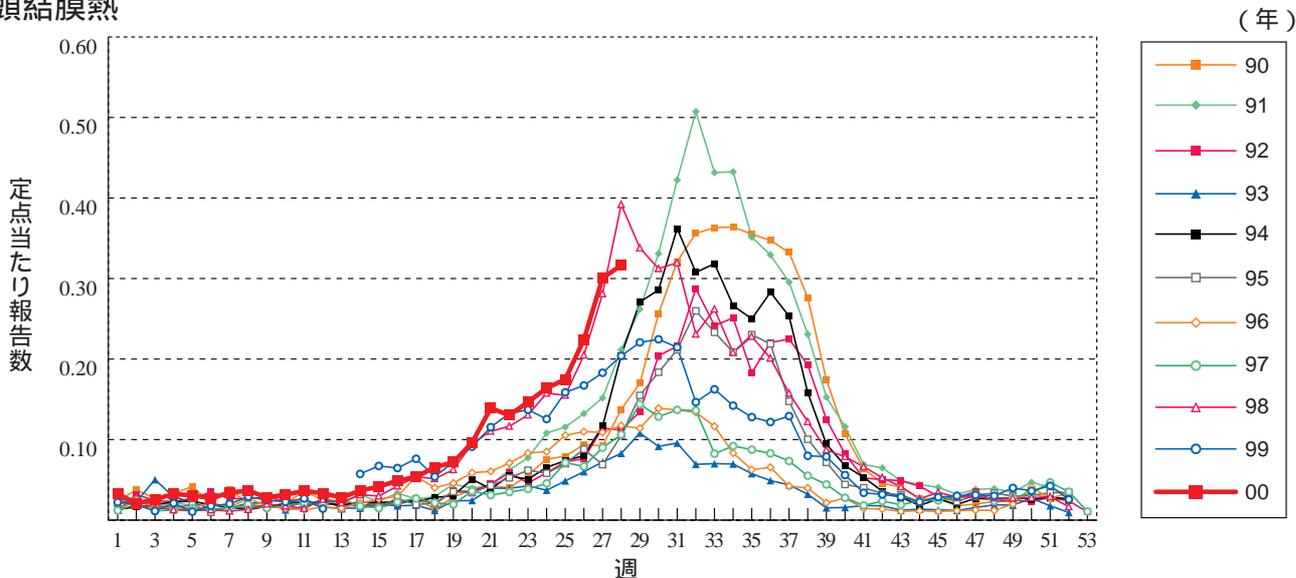
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(28週)

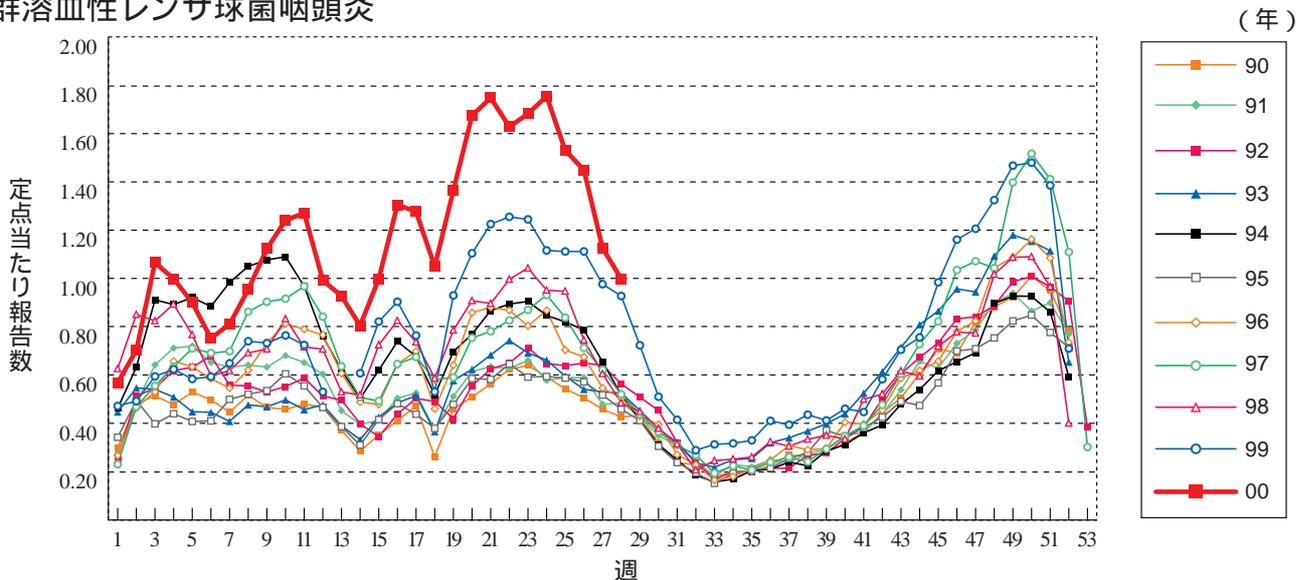
インフルエンザ



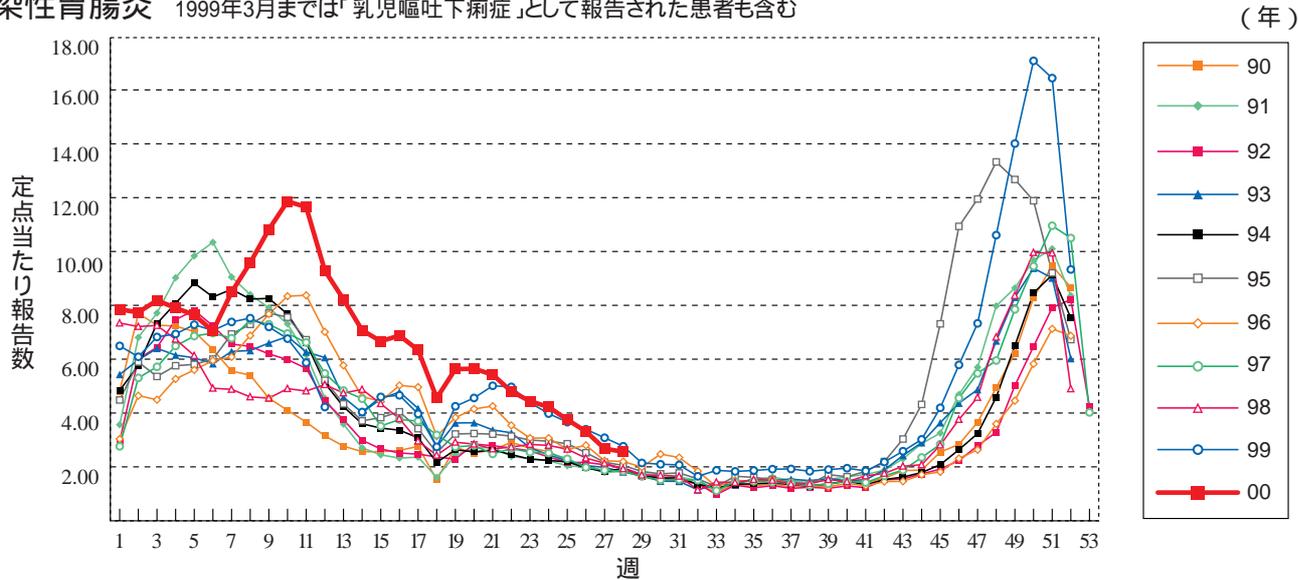
咽頭結膜熱



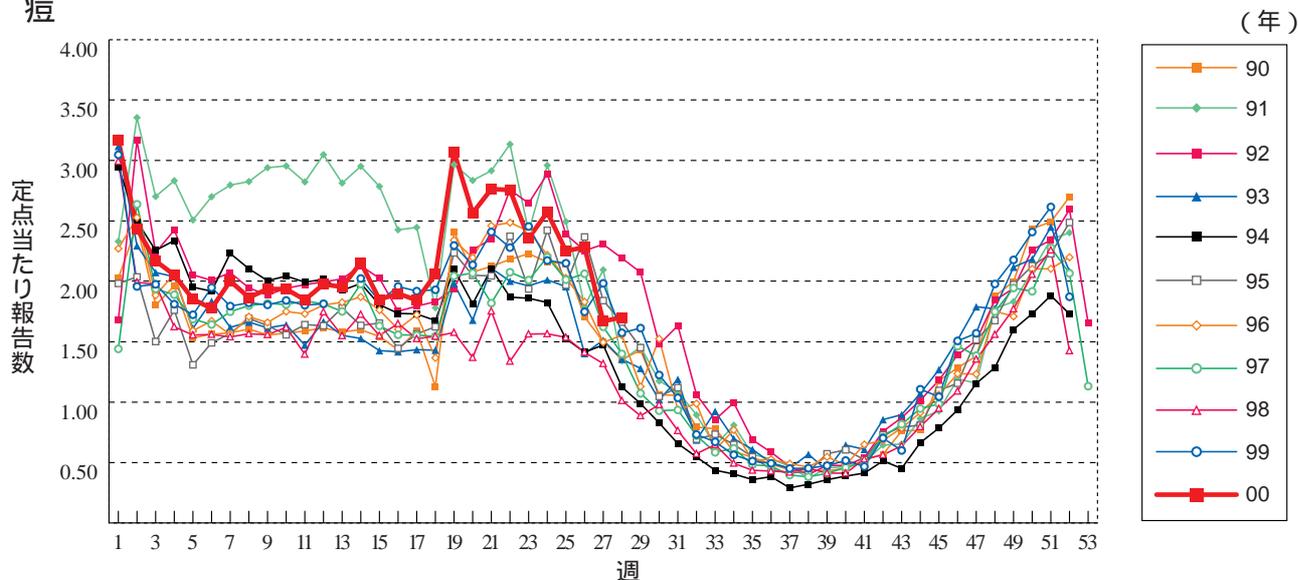
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



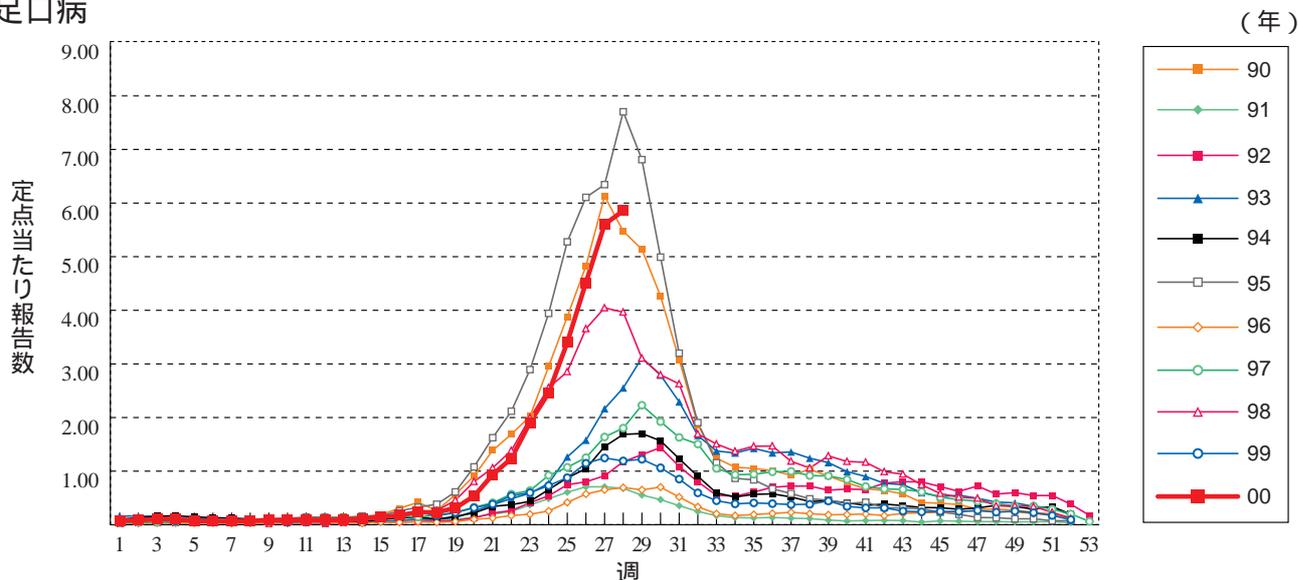
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



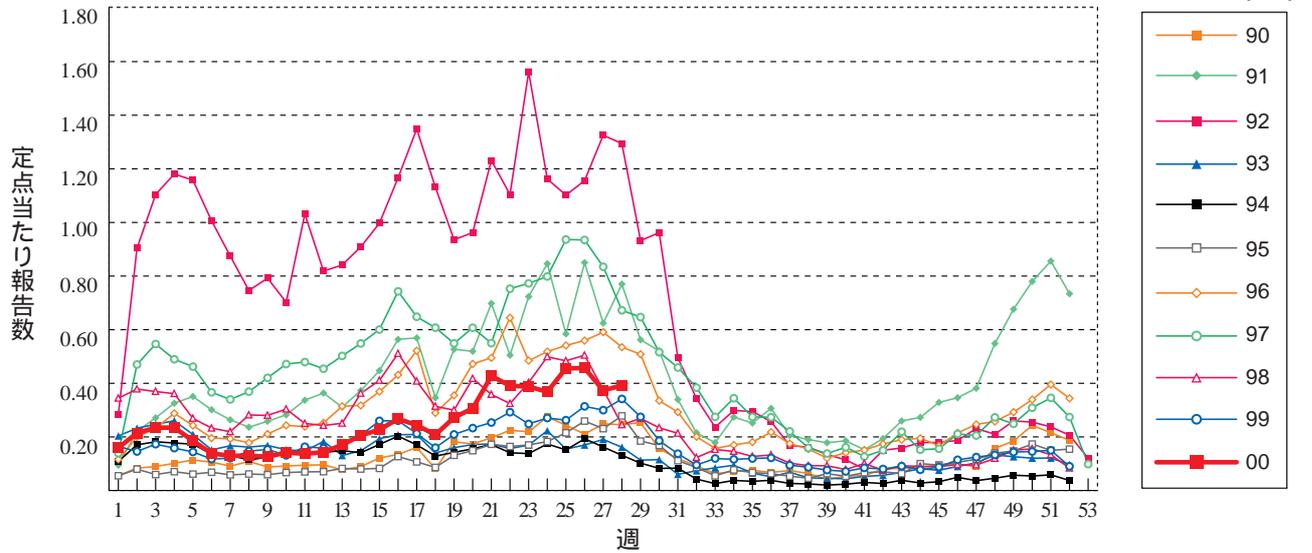
水痘



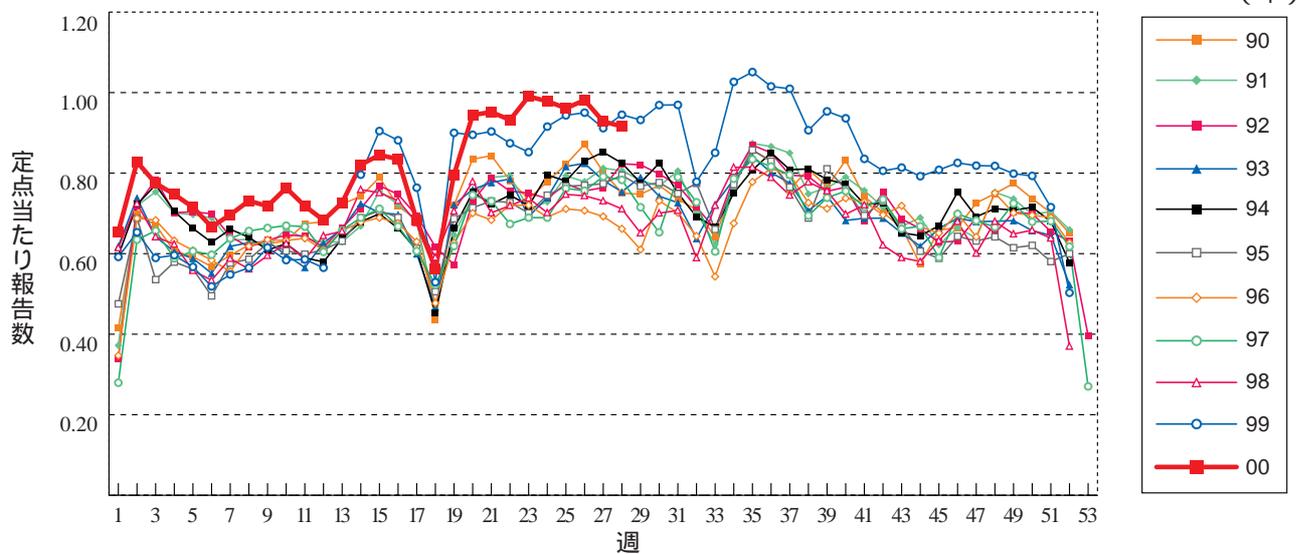
手足口病



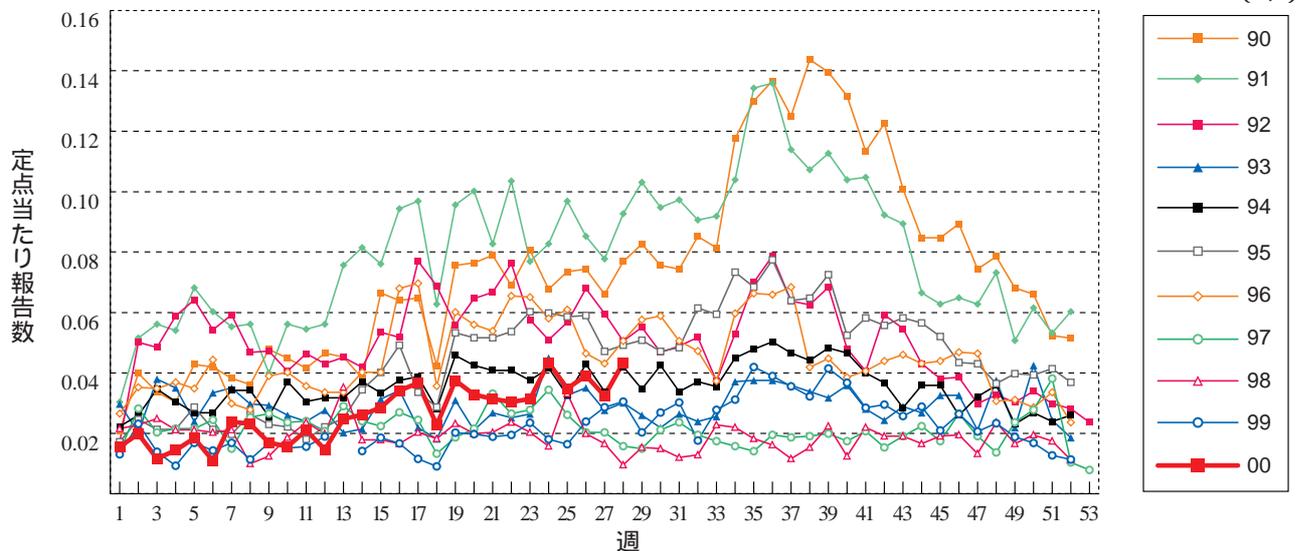
伝染性紅斑



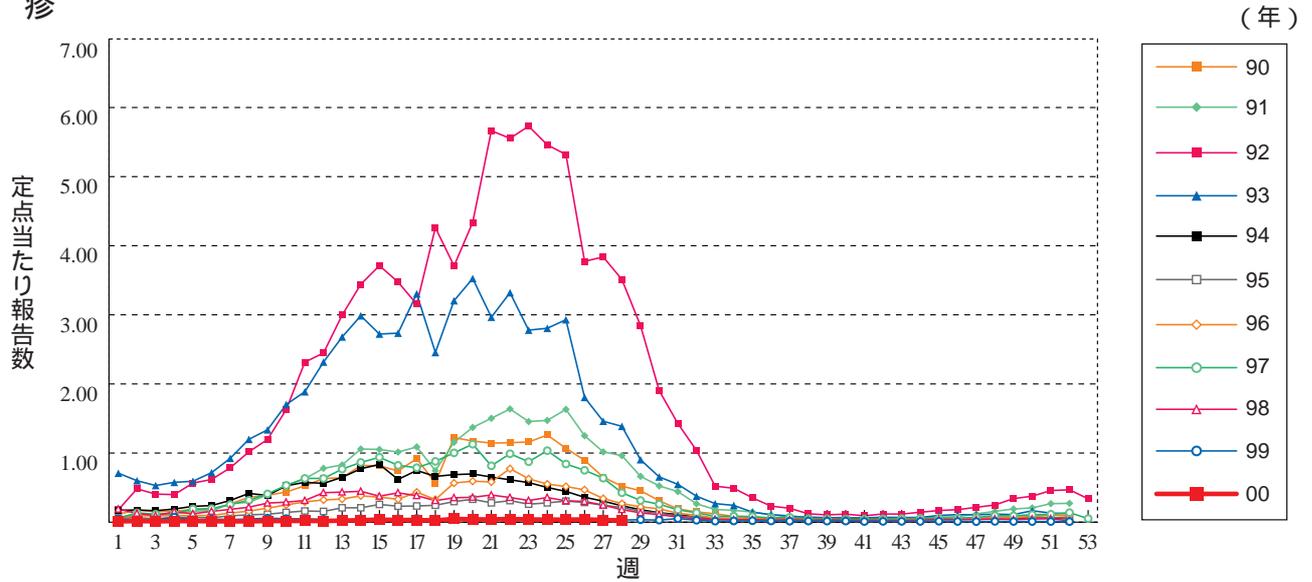
突発性発疹



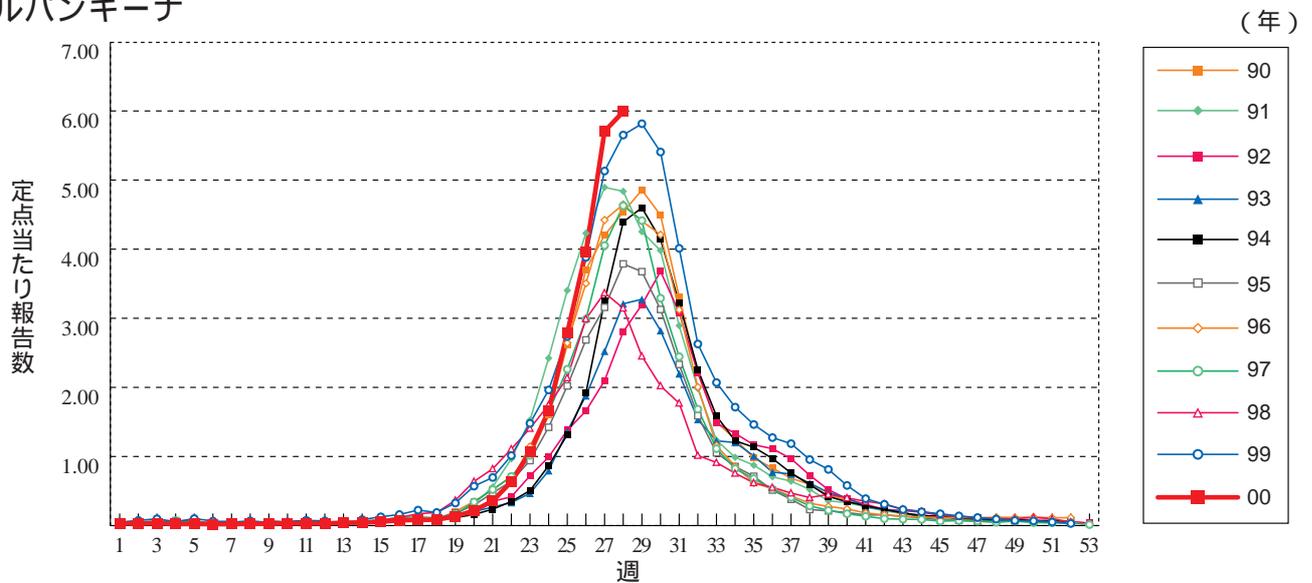
百日咳



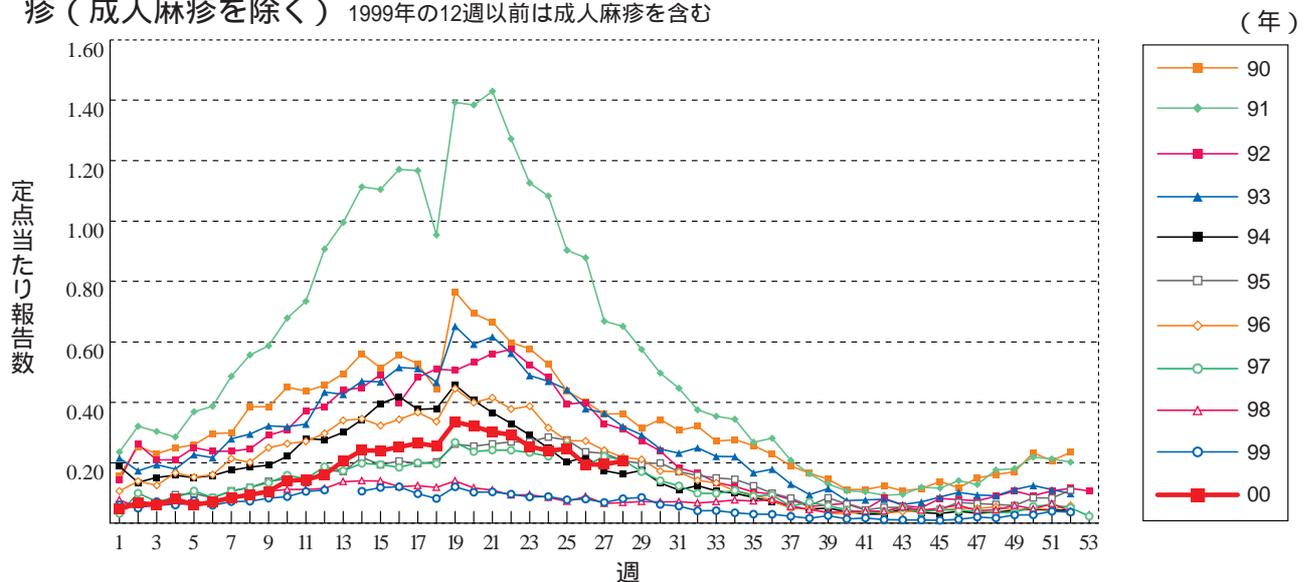
風 疹



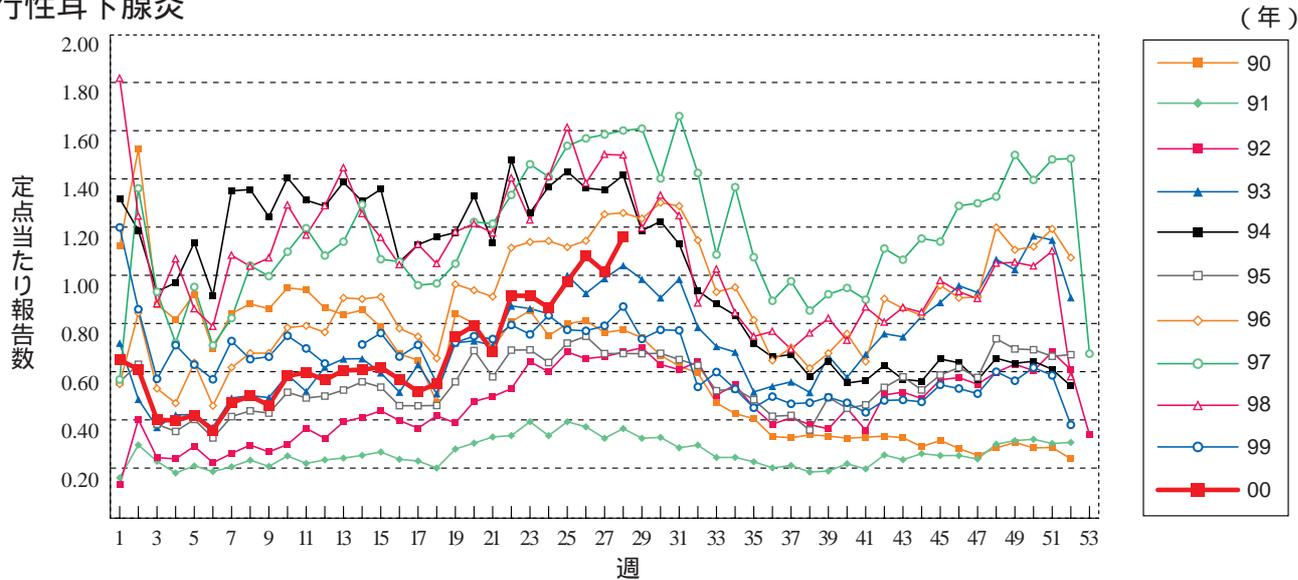
ヘルパンギーナ



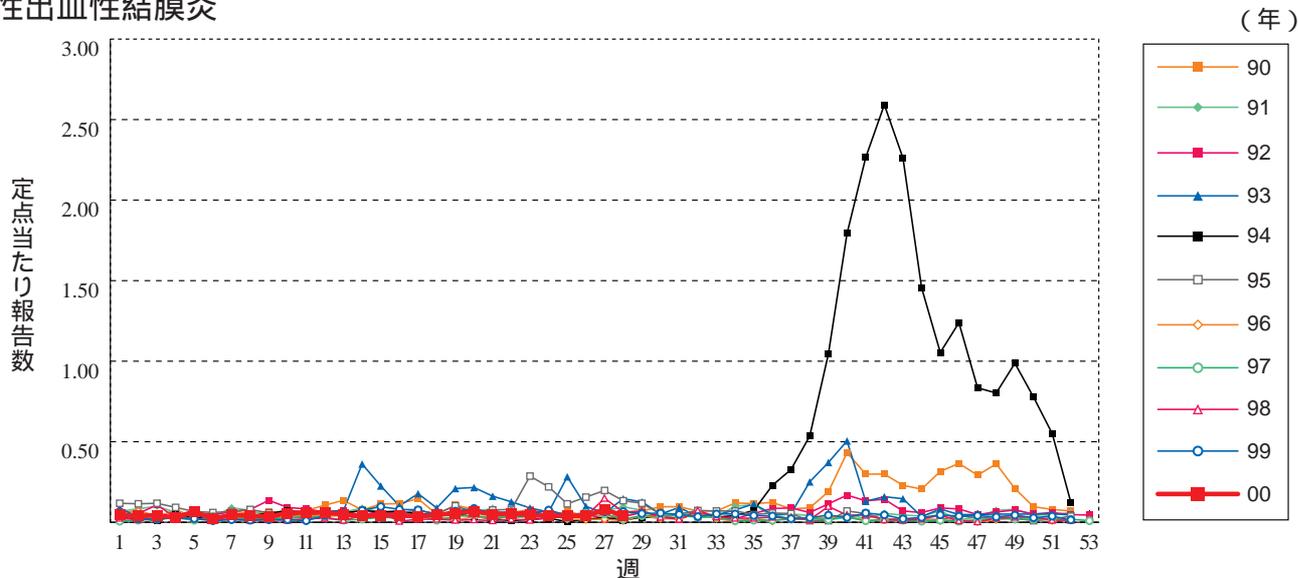
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



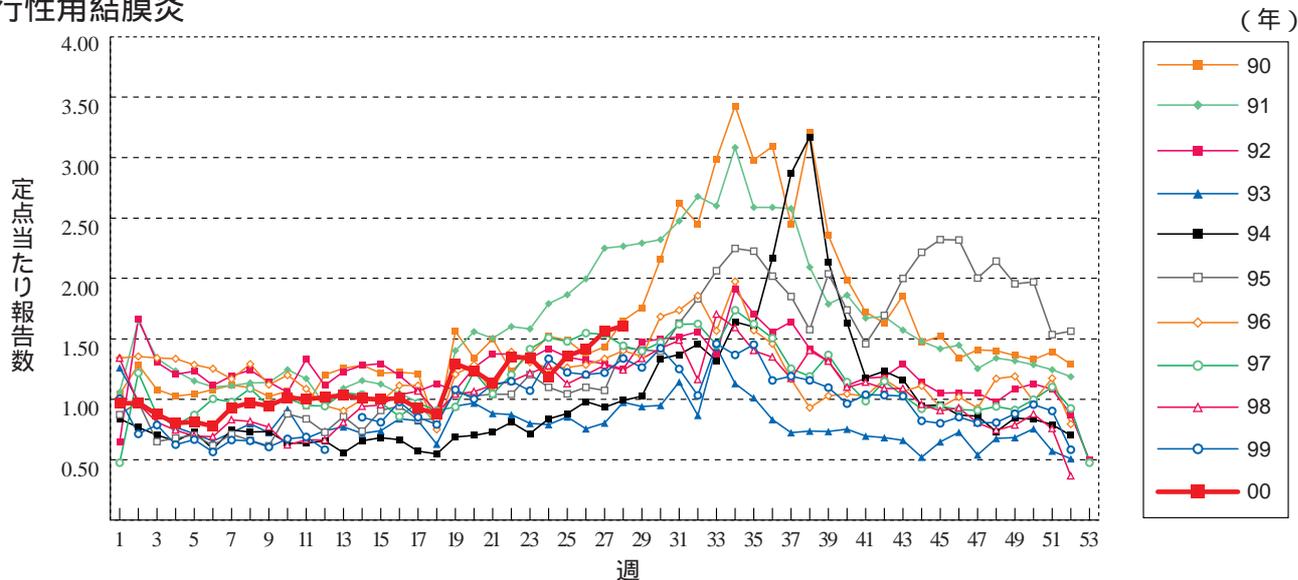
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

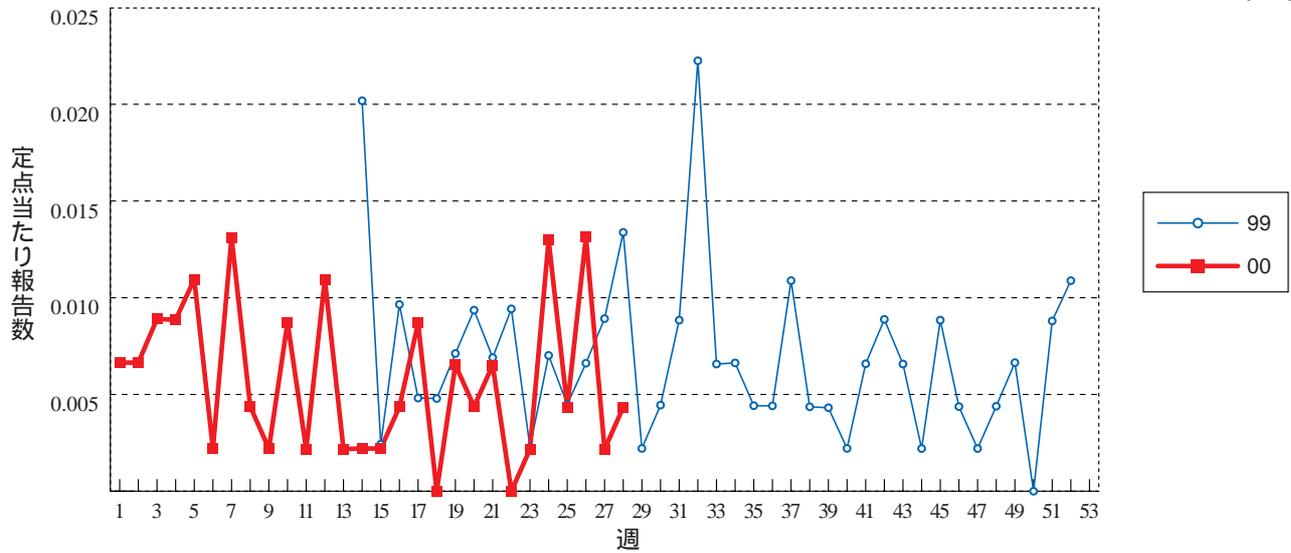


流行性角結膜炎



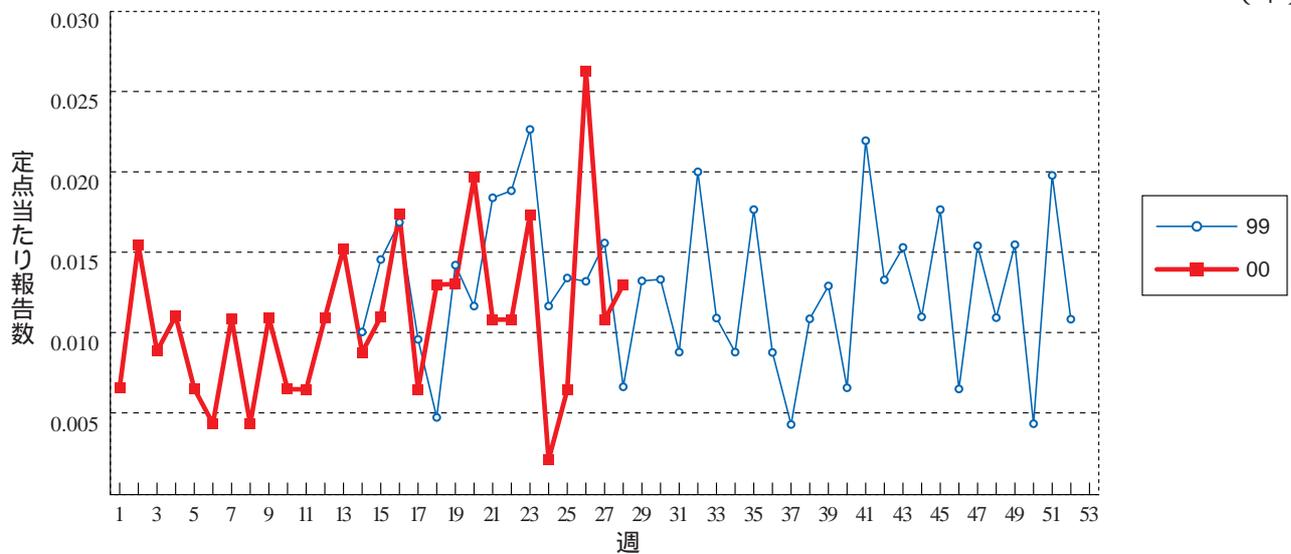
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



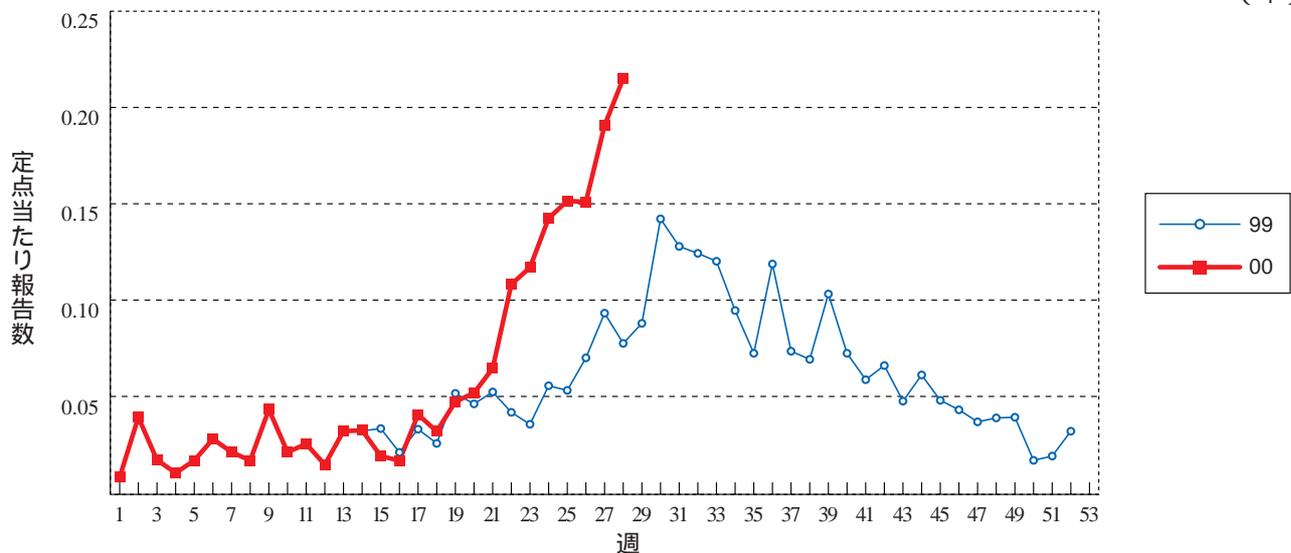
細菌性髄膜炎

(年)



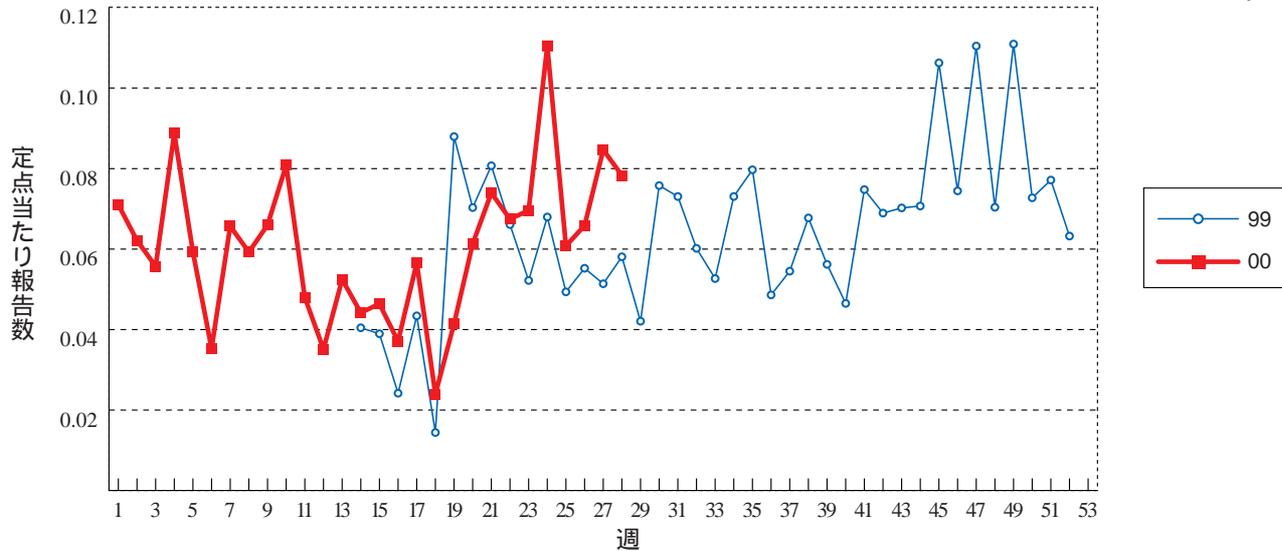
無菌性髄膜炎

(年)



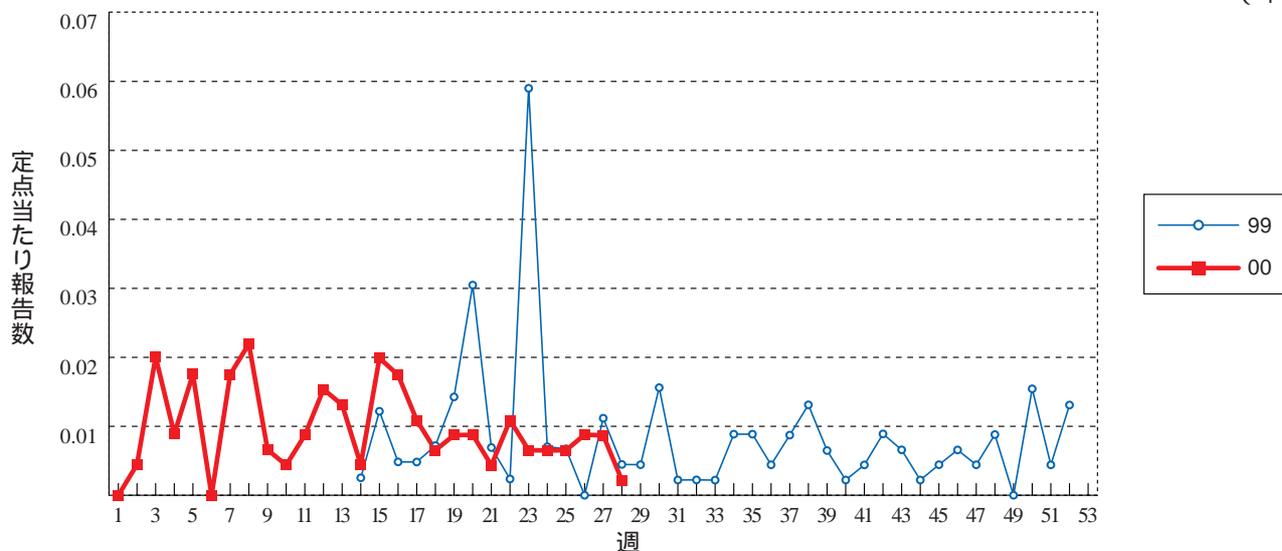
マイコプラズマ肺炎

(年)



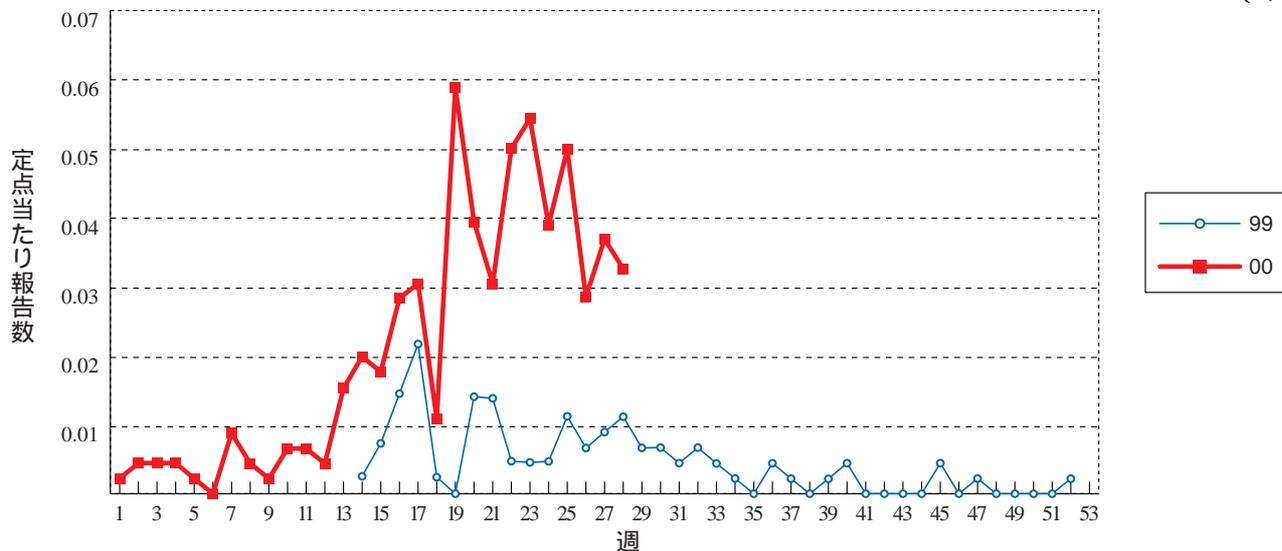
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





28週のデータ

注)表中の報告数は7月21日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年28週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	20	10	380	-	59	-	8
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	2	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	3	76	-	10	-	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	25	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	1	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	29	-	4	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	1	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	6	-	2	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	3	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	7	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	98	1132	3	188	-	10	-	-	-	11	-	-	8	570
北海道	-	-	-	-	2	29	1	3	-	9	-	-	-	-	-	-	-	9
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	2	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	4	9	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
秋田県	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	1	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
埼玉県	-	-	-	-	8	35	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
千葉県	-	-	-	-	4	35	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	4	90	-	52	-	-	-	-	-	3	-	-	1	67
神奈川県	-	-	-	-	4	110	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
新潟県	-	-	-	-	1	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
石川県	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
福井県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
長野県	-	-	-	-	2	11	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	14	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
愛知県	-	-	-	-	6	59	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
三重県	-	-	-	-	4	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	4	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
京都府	-	-	-	-	-	17	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
大阪府	-	-	-	-	13	98	1	36	-	-	-	-	-	1	-	-	-	64
兵庫県	-	-	-	-	3	54	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	1	62
奈良県	-	-	-	-	-	10	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
和歌山県	-	-	-	-	-	26	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2	29	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	20
広島県	-	-	-	-	5	42	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13
山口県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
香川県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
愛媛県	-	-	-	-	2	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
高知県	-	-	-	-	1	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	5	77	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	21
佐賀県	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
大分県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	1	-	-	3	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
鹿児島県	-	-	-	-	4	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	2	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	6	-	-	-	2	2	50	-	29	11	379	-	1	1	56	-	-
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	25	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	12	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	20	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	3	-	24	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	6	-	2	7	150	-	1	1	8	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	27	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	12	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	9	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	24	-	-	-	7	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	8	-	-	-	6	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	1	-	-	2	206	1	7	1	11	-	-	-	-	7	403
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
青森県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	1	4	-	-	-	-	-	11
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	63
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	17
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-	-	-	-	23
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	40	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	1	93	2	7	2	87
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	7	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 9
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	3
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
千葉県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	3
東京都	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	-	-	-	7
神奈川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1
兵庫県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	66	0.01	947	0.32	2989	1.00	7699	2.57	5093	1.70	17510	5.85	1173	0.39	2743	0.92	130	0.04
北海道	5	0.02	26	0.18	167	1.15	285	1.97	378	2.61	652	4.50	94	0.65	138	0.95	1	0.01
青森県	-	-	6	0.15	-	-	4	0.10	10	0.24	4	0.10	4	0.10	-	-	-	-
岩手県	-	-	2	0.05	27	0.71	57	1.50	63	1.66	16	0.42	23	0.61	31	0.82	1	0.03
宮城県	2	0.02	7	0.12	91	1.54	222	3.76	126	2.14	58	0.98	62	1.05	77	1.31	1	0.02
秋田県	2	0.04	5	0.14	46	1.31	130	3.71	56	1.60	22	0.63	9	0.26	16	0.46	-	-
山形県	2	0.04	1	0.03	48	1.66	100	3.45	60	2.07	446	15.38	32	1.10	34	1.17	2	0.07
福島県	-	-	14	0.29	22	0.46	106	2.21	115	2.40	65	1.35	18	0.38	44	0.92	3	0.06
茨城県	-	-	2	0.03	85	1.18	142	1.97	106	1.47	320	4.44	39	0.54	53	0.74	1	0.01
栃木県	-	-	6	0.13	61	1.36	77	1.71	45	1.00	363	8.07	8	0.18	44	0.98	2	0.04
群馬県	-	-	5	0.08	76	1.23	158	2.55	154	2.48	840	13.55	18	0.29	38	0.61	1	0.02
埼玉県	3	0.01	62	0.39	190	1.19	424	2.65	280	1.75	1765	11.03	87	0.54	152	0.95	3	0.02
千葉県	3	0.01	26	0.19	160	1.19	270	2.01	254	1.90	599	4.47	99	0.74	114	0.85	-	-
東京都	-	-	24	0.17	84	0.59	259	1.82	128	0.90	535	3.77	81	0.57	75	0.53	-	-
神奈川県	18	0.06	57	0.28	191	0.93	335	1.63	373	1.82	1642	8.01	158	0.77	205	1.00	3	0.01
新潟県	-	-	4	0.07	103	1.72	171	2.85	131	2.18	188	3.13	26	0.43	57	0.95	4	0.07
富山県	1	0.02	7	0.24	24	0.83	62	2.14	45	1.55	37	1.28	5	0.17	25	0.86	1	0.03
石川県	1	0.02	7	0.24	12	0.41	115	3.97	40	1.38	50	1.72	5	0.17	19	0.66	-	-
福井県	-	-	1	0.05	41	1.86	130	5.91	34	1.55	36	1.64	6	0.27	24	1.09	-	-
山梨県	4	0.10	13	0.52	29	1.16	52	2.08	31	1.24	13	0.52	3	0.12	12	0.48	-	-
長野県	-	-	13	0.25	64	1.25	152	2.98	131	2.57	134	2.63	43	0.84	58	1.14	-	-
岐阜県	1	0.01	20	0.38	96	1.81	63	1.19	104	1.96	33	0.62	6	0.11	35	0.66	1	0.02
静岡県	-	-	53	0.62	72	0.84	337	3.92	164	1.91	456	5.30	24	0.28	103	1.20	3	0.03
愛知県	-	-	32	0.18	154	0.85	434	2.38	242	1.33	269	1.48	85	0.47	159	0.87	7	0.04
三重県	-	-	25	0.56	48	1.07	184	4.09	124	2.76	293	6.51	4	0.09	68	1.51	-	-
滋賀県	3	0.06	1	0.03	30	0.97	79	2.55	31	1.00	129	4.16	3	0.10	19	0.61	1	0.03
京都府	-	-	11	0.14	59	0.78	342	4.50	97	1.28	335	4.41	18	0.24	67	0.88	2	0.03
大阪府	6	0.02	103	0.54	161	0.85	386	2.04	275	1.46	1506	7.97	27	0.14	133	0.70	12	0.06
兵庫県	-	-	63	0.49	127	0.99	386	3.02	239	1.87	1376	10.75	26	0.20	120	0.94	34	0.27
奈良県	-	-	5	0.14	25	0.71	78	2.23	50	1.43	680	19.43	6	0.17	33	0.94	1	0.03
和歌山県	-	-	47	1.52	10	0.32	53	1.71	70	2.26	529	17.06	5	0.16	25	0.81	4	0.13
鳥取県	-	-	4	0.21	85	4.47	91	4.79	38	2.00	88	4.63	4	0.21	19	1.00	1	0.05
島根県	-	-	1	0.04	10	0.43	52	2.26	22	0.96	22	0.96	1	0.04	17	0.74	-	-
岡山県	-	-	43	0.80	48	0.89	147	2.72	61	1.13	110	2.04	7	0.13	37	0.69	4	0.07
広島県	-	-	70	0.93	49	0.65	224	2.99	89	1.19	259	3.45	10	0.13	60	0.80	5	0.07
山口県	-	-	22	0.45	61	1.24	162	3.31	107	2.18	211	4.31	5	0.10	60	1.22	3	0.06
徳島県	-	-	14	0.61	12	0.52	49	2.13	45	1.96	123	5.35	-	-	27	1.17	1	0.04
香川県	1	0.02	17	0.53	21	0.66	47	1.47	26	0.81	171	5.34	10	0.31	37	1.16	3	0.09
愛媛県	-	-	30	0.77	42	1.08	153	3.92	92	2.36	298	7.64	2	0.05	48	1.23	-	-
高知県	-	-	9	0.29	19	0.61	45	1.45	33	1.06	28	0.90	1	0.03	21	0.68	2	0.06
福岡県	-	-	15	0.19	73	0.92	335	4.24	178	2.25	965	12.22	29	0.37	97	1.23	3	0.04
佐賀県	-	-	3	0.13	15	0.65	58	2.52	44	1.91	262	11.39	10	0.43	42	1.83	-	-
長崎県	-	-	5	0.11	27	0.61	53	1.20	49	1.11	376	8.55	2	0.05	30	0.68	1	0.02
熊本県	-	-	9	0.18	43	0.88	102	2.08	105	2.14	279	5.69	14	0.29	75	1.53	1	0.02
大分県	-	-	29	0.81	46	1.28	167	4.64	104	2.89	215	5.97	32	0.89	52	1.44	4	0.11
宮崎県	-	-	16	0.43	50	1.35	199	5.38	55	1.49	154	4.16	17	0.46	60	1.62	5	0.14
鹿児島県	14	0.14	6	0.10	46	0.77	198	3.30	72	1.20	533	8.88	5	0.08	69	1.15	9	0.15
沖縄県	-	-	6	0.18	39	1.15	24	0.71	17	0.50	25	0.74	-	-	14	0.41	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年28週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	73	0.02	17953	6.00	615	0.21	3486	1.16	25	0.04	1009	1.61	2	0.00	6	0.01	99	0.22
北海道	-	-	428	2.95	30	0.21	234	1.61	-	-	38	1.31	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	29	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	194	5.11	5	0.13	31	0.82	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	836	14.17	30	0.51	10	0.17	-	-	9	0.82	-	-	1	0.08	-	-
秋田県	3	0.09	136	3.89	-	-	26	0.74	-	-	9	1.29	-	-	-	-	1	0.13
山形県	-	-	53	1.83	-	-	22	0.76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.04	496	10.33	1	0.02	22	0.46	-	-	15	1.36	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	502	6.97	18	0.25	43	0.60	1	0.06	53	3.31	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	283	6.29	6	0.13	16	0.36	-	-	35	2.92	1	0.17	1	0.17	-	-
群馬県	-	-	588	9.48	4	0.06	177	2.85	-	-	21	1.50	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	6	0.04	1881	11.76	34	0.21	390	2.44	2	0.06	62	1.72	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.02	1869	13.95	21	0.16	194	1.45	1	0.03	48	1.41	1	0.08	-	-	2	0.15
東京都	13	0.09	960	6.76	34	0.24	89	0.63	-	-	24	1.71	-	-	1	0.04	2	0.08
神奈川県	5	0.02	2180	10.63	36	0.18	279	1.36	1	0.02	123	2.93	-	-	-	-	4	0.36
新潟県	-	-	736	12.27	2	0.03	55	0.92	-	-	2	0.22	-	-	-	-	3	0.23
富山県	-	-	75	2.59	-	-	16	0.55	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	60	2.07	5	0.17	2	0.07	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	72	3.27	4	0.18	21	0.95	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	90	3.60	3	0.12	6	0.24	2	0.67	1	0.33	-	-	-	-	2	0.20
長野県	-	-	279	5.47	2	0.04	49	0.96	2	0.20	13	1.30	-	-	-	-	3	0.27
岐阜県	-	-	325	6.13	11	0.21	57	1.08	1	0.09	22	2.00	-	-	-	-	2	0.40
静岡県	4	0.05	691	8.03	1	0.01	184	2.14	1	0.05	27	1.29	-	-	-	-	6	0.67
愛知県	3	0.02	1012	5.56	12	0.07	202	1.11	1	0.03	52	1.49	-	-	-	-	-	-
三重県	1	0.02	159	3.53	12	0.27	59	1.31	-	-	23	1.92	-	-	-	-	10	1.11
滋賀県	1	0.03	41	1.32	8	0.26	16	0.52	-	-	9	1.29	-	-	-	-	8	1.14
京都府	1	0.01	154	2.03	9	0.12	37	0.49	-	-	14	0.78	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	8	0.04	483	2.56	114	0.60	182	0.96	4	0.08	47	0.90	-	-	-	-	2	0.25
兵庫県	1	0.01	736	5.75	29	0.23	131	1.02	1	0.03	51	1.46	-	-	-	-	5	0.36
奈良県	-	-	35	1.00	20	0.57	24	0.69	-	-	37	4.11	-	-	-	-	5	0.83
和歌山県	-	-	25	0.81	9	0.29	25	0.81	-	-	3	0.75	-	-	1	0.09	5	0.45
鳥取県	-	-	130	6.84	3	0.16	33	1.74	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	33	1.43	1	0.04	18	0.78	1	0.33	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	223	4.13	18	0.33	47	0.87	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
広島県	3	0.04	402	5.36	43	0.57	71	0.95	2	0.10	32	1.60	-	-	-	-	5	0.24
山口県	1	0.02	243	4.96	1	0.02	144	2.94	-	-	19	2.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	29	1.26	6	0.26	4	0.17	-	-	14	3.50	-	-	-	-	-	-
香川県	2	0.06	167	5.22	17	0.53	30	0.94	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.20
愛媛県	1	0.03	213	5.46	2	0.05	26	0.67	-	-	23	3.29	-	-	-	-	7	1.17
高知県	-	-	96	3.10	11	0.35	44	1.42	-	-	6	2.00	-	-	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	268	3.39	29	0.37	96	1.22	-	-	33	1.83	-	-	-	-	4	0.27
佐賀県	-	-	115	5.00	3	0.13	66	2.87	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
長崎県	-	-	66	1.50	2	0.05	28	0.64	5	0.63	20	2.50	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	209	4.27	2	0.04	172	3.51	-	-	19	2.11	-	-	2	0.13	9	0.60
大分県	1	0.03	135	3.75	10	0.28	8	0.22	-	-	10	2.00	-	-	-	-	-	-
宮崎県	8	0.22	113	3.05	4	0.11	66	1.78	-	-	1	0.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	94	1.57	3	0.05	30	0.50	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	9	0.26	-	-	4	0.12	-	-	41	4.10	-	-	-	-	5	0.71

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年28週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	36	0.08	1	0.00	15	0.03
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	7	0.35	-	-	-	-
宮城県	7	0.58	-	-	1	0.08
秋田県	6	0.75	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.09	-	-	2	0.18
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	1	0.14	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	1	0.17
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	4	0.44
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第28号 平成12年7月28日発行
発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課
厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhw.go.jp/
<厚生省>
http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/
<成田空港検疫所>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。